

【第 74 期定時株主総会 質疑応答記録】

質問 1

昨年度の業績は伸びており、グミの売上も伸長しているものの、市場全体の成長率の方が上回っているように思われるが、工場拡張など今後のグミ生産に関して教えてほしい。

回答

当社はグミを伸ばすことで市場を牽引してきた自負がありますが、近時グミ市場は輸入商材が多く入ってきており、また国内競合他社も力を入れてきていることから、おっしゃるような状況にはございます。当社としても松本工場の拡張を今年10月に予定しており、増産体制を整えつつあるところです。グミ市場は今後も伸長が見込まれますが、既存ブランドの更なる強化及び魅力ある新商品の投入によって、市場を活性化させ牽引して参りたいと思います。

質問 2

今後の海外市場展開について教えてほしい。

回答

まず、中国市場向けには、現地パートナー企業と共に引き続き対中向け商品「0糖1刻」の拡販に注力しつつ、その他適切な商品の展開を進めて参ります。

次に、台湾・香港向けには、既に投入・展開を進めている「ピュレグミ」ブランドの更なる浸透を図ります。

中華圏以外に対しては、米国市場へ本格的に進出してまいります。エリア・ターゲットを絞った効果的な戦略を練っているところですが、既存主要ブランドを中心に商品展開する予定です。当社主要ブランドを海外に浸透させ、世界中の人々を笑顔にするとのビジョンは、当社パーパスとも合致いたしますので、今後も積極的に海外展開を推し進めます。

質問 3

ここ数年で急に業績が伸びた原因分析を伺いたい。

回答

市場の伸張が背景の一つにあると分析しております。当社は飴とグミを中心に展開をしておりますが、中でもグミを成長エンジンと位置付けております。2019年にはグミラインを増設し、成長エンジンを強化すると共に、「ピュレグミ」、「カンデミーナグミ」といった既存グミブランドの浸透強化を図りました。その結果、グミ市場全体の伸張と呼応するように、グミの販売も拡大し続けています。一方で飴については、「カンロ飴」はもちろん、「金のミルクキャンディ」や「健康のど飴」といった既存ブランドの価値を高めることを通じ、消費者の皆様のご理解を拡げてまいりました。飴・グミともに、市場において当社ブランドへの理解が浸透してきた結果と捉えております。

質問4

業績が伸びているのは商品企画に成功したことも理由ではないかと推測する。製品開発の成功の秘訣があれば聞きたい。

回答

当社の商品開発の基軸は、当社パーパス・企業理念に明記のあるとおり、素材を活かし、キャンディならではの機能性を追求することにあります。それにより、当社ブランドおよび商品づくりに対し、お客様から「安心安全である」との信頼をお寄せいただけていると理解しております。

基本方針であるブランド基軸経営に基づき、素材の力と機能を追求した商品開発を推進できることが当社の強みであり、業績伸張の一因であると考えております。

質問5

剰余金処分の議案がないのはなぜか。

回答

当社は、取締役選任議案を毎年定時株主総会に上程しております。これは定款第21条の取締役の任期の定めによるものです。これによって、会社法第459条第1項第4号に基づき剰余金処分を取締役会限りで行う旨の定款の定めをおくことができます。当社はそのような定款の定めに基づいて、剰余金処分を取締役会決議により行っております。

質問6

競合他社においては、売上低下を理由に長年親しまれていた商品を終売する例も見受けられる。当社はロングセラー商品も多いが、万一、商品ブランドの廃止を検討せざるを得なくなった場合における判断についての考えを聞きたい。

回答

当社にとってロングセラー商品は大切なブランド資産であり、継続的に活性化を図る方針ですが、時代と共に市場環境や消費者の嗜好が変化し、売上が低下することも考えられます。業績への影響如何では、経営として苦渋の判断をせざるを得ない場合もありますが、ブランド基軸経営の下、そのようなことの起こらぬよう努めてまいります。

質問7（ご意見）

ハリボーの固いグミが子供に人気のものであるので、商品開発の参考にしてほしい。

回答

貴重なご意見として承ります。当社も固い食感が特長の「カンデミーナグミ」を製造・販売しておりますが、ご意見も参考に、お子様も含めた様々なお客様のご嗜好を一層大切にしながら、今後も皆様に喜んでいただけるような商品開発に取り組んでまいります。

質問8（ご意見）

多少高価でも、甘い物を食べたという満足感を一粒で得られる商品を開発してはどうか。

回答

大変貴重なご意見として承りました。当社は、多くの方々に美味しさを届ける使命を持つメーカーとして、様々なお客様の声をもとに商品を開発しております。お客様の多様な嗜好全てに応じることは難しくとも、ご意見も参考に、一人でも多くのお客様にご満足いただける商品開発に励んでまいります。

質問9（ご意見）

学生向けの商品を出されたようであるが、子供・シニアの意見を反映した新商品も開発してはどうか。

回答

当社は、Z世代との共同開発商品を複数展開しておりますが、それに限らず幅広い年代の方々に向けたアプローチが重要であると認識しております。商品開発においては、ターゲット世代の方々のご意見にしっかりと耳を傾け、商品に的確に反映すべきと考えており、貴重なご意見も参考にしつつ取り組んでまいります。

以上